

## 用語集

語句	読み	意味
<b>【あ】</b>		
亜硝酸態窒素	あしょうさんた いちっそ	食品などの中に含まれる窒素化合物のうち、HNO <sub>2</sub> 、NO <sub>2</sub> などの亜硝酸態のもののことです。
溢水	いっすい	河川の水が堤内地にあふれ出す現象のことです。
右岸側	うがながわ	河川を流れ下るときの、右側を指します。左側は「左岸」といいます。
エコロジカルポ ンド	えころじかるぼ んど	人間の開発により野生生物の生息空間が狭められないよう、生態系や生育環境に配慮して整備した、調節池や防災調整池のことです。
<b>【か】</b>		
外水氾濫	がいすいはんら ん	増水した河川の水が堤防を越水することや、堤防に生じる洗掘、亀裂、漏水等により破堤が生じることにより、河川水が堤内地に氾濫する現象のことをいいます。
崖線	がいせん	崖地の連なることで、緑が連続し、湧水や豊かな動植物生態が残っている場合が多い場所です。
河岸浸食	かがんしんしょ く	洪水時に水の流体力によって、河岸の一部が削られる現象のことです。
確率評価	かくりつひょうか	洪水を防ぐための計画を作成するとき、被害を発生させずに安全に流すことのできる洪水の大きさのことを計画規模といえます。 例えば、対象とする洪水の規模を超える確率が10年に1回であるとき、その洪水規模を「1/10」、100年に1回であるとき「1/100」と表現します。
河床樹	かしょうじゅ	河床に存在する樹木のことです。
河川水辺の国 勢調査	かせんみずべ のこくせいちょう さ	河川を生物調査という観点からとらえ、定期的、継続的、統一的に基礎情報を収集整備するための調査です。
合併浄化槽	がっぺいじょう かそう	トイレ用水を台所用水等の雑排水と一緒にして、処理する方式の浄化槽です。合併処理は技術的にも高度の機能が期待でき、さらに雑排水も処理されるので環境保全上は合理的な方法です。
河畔林	かはんりん	河川の周辺に繁茂する森林のことです。
環境基準	かんきょうきじ ゆん	水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の基準については河川、湖沼、海域別に利水目的に応じた水域を区切ってAA、A、B、C、D、Eの6つの類型を設けています。AA類型が最もきれいな水で、E類型が最もきたない水になります。
幹川流路	かんせんりゅう ろ	一つの水系の中で流量・流域面積の大きいものを幹川(線)とし、河口から谷をさかのぼった分水界上の点までの水が流れる道筋のことです。
関東ローム層	かんとうろむ そう	関東地方に分布する火山灰起源の地層群の総称であり、第四紀更新世の火山活動に由来します。
涵養	かんよう	降雨や河川水などが地下浸透して帯水層に水が供給されることをいいます。
汽水域	きすいいき	海水と淡水が混同している水域のことです。
計画高水位 (HWL)	けいかくこうす い (はいうおーた ーれべる)	計画高水流量が河川改修後の河道断面(計画断面)を流下するときの水位のことです。 なお計画高水流量とは、河道を設計する場合に基本となる流量です。
高度処理水	こうどしよりすい	下水処理の過程で、一次処理、二次処理を経てなお残留する窒素、リン等を除去し、さらに処理水の水質向上を目的として行う高度処理によって得られた水のことです。
護岸	ごがん	河川を流れる水の作用(浸食作用など)から河岸や堤防を守るために、表法面(川側斜面)に設けられる施設のことです。

語句	読み	意味
コンクリート三面張り護岸	こんくりーとさんめんぱりごがん	川の両岸と川の底の三面がコンクリートで固められた護岸の事です。
<b>【さ】</b>		
左岸側	さがんがわ	河川を流れ下るときの、左側を指します。右側は「右岸」といいます。
シートパイル	しーとばいる	矢板と同義です。
時間最大雨量	じかんさいだいうりょう	ある期間の中で、1時間に降った最大雨量の事です。
じゃかご	じゃかご	竹材や鉄線で編んだ長い籠に碎石をつめこんだものです。河川の護岸や傾斜の補強などに使われてきました。河床にじゃかごを設置することで、土砂流出を防ぎます。
遮水工	しやすいこう	川の水が地下に浸透するのを防ぐ対策の事です。
準用河川	じゅんようかせん	市長村長が管理する河川の事です。
硝酸態窒素	しょうさんたいちっそ	硝酸塩として含まれている窒素のことで、水中では硝酸イオンとして存在しています。
親水性	しんすいせい	川の水への親しみやすさの事です。
水系	すいけい	河川は上流部から小さな河川が合流し、この合流を繰り返しながら徐々に海へ向かうにしたがい、大きな河川となっていきます。これら一群の河川を合わせた単位を「水系」と呼びます。
水源保護林	すいげんほごりん	水源の涵養を目的として保護・管理する、原生的な天然林などの国有林野の事です。
瀬	せ	淵と淵の間をつなぐ比較的まっすぐな区間で水深が浅くて流れが速い場所の事をいいます。
清流ルネッサンスⅡ	せいりゅうるねっさんすつー	水質及び水量の改善を目的として、河川、都市下水路、湖沼、ダム貯水池等を対象に水環境改善対策を推進するための取り組みです。
堰	せき	河川から農業用水、工業用水、水道用水などの水を取るために、河川を横断して水位を制御するための施設の事です。
瀬切れ	せぎれ	河川の流量が少ない渇水時に、水が河床の砂礫内を流れてしまい、表面に水が流れていない状態の事です。
洗堀	せんくつ	激しい川の流れや波浪などにより、堤防の表法面の土が削り取られる状態の事です。
全窒素	ぜんちっそ	水中に含まれる、有機および無機(アンモニア態・亜硝酸態・硝酸態)の窒素化合物の総量の事です。
全リン	ぜんりん	水中に含まれる無機及び有機リン化合物中のリンの総量の事です。
<b>【た】</b>		
帯水層	たいすいそう	地下水で満たされた砂層等の透水性が比較的良い地層であり、一般には地下水取水の対象となり得る地層の事です。
タイムライン	たいむらいん	ここでは災害時の行動計画の事をいいます。
多自然川づくり	たしぜんかわづくり	河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことです。
地下水マネジメント	ちかすいまねじめんと	地下水の保全と利用のバランス等の課題に対して、地域性を踏まえ、地下水の保全(質・量)、地下水涵養などを総合的にマネジメントすることをいいます。
治水	ちすい	洪水による被害から人々や地域、生活、財産を守る事です。

語句	読み	意味
治水緑地	ちすいりよくち	平常時は公園などとして利用し、洪水時は河川の水を計画的に貯留することで下流への影響を低減させる施設です。
中水利用	ちゅうすいりよう	一度使用した水道水を別の目的で利用することです。 上水、下水でもないため、中水と呼ばれます。 中水はトイレの洗浄水、散水、消火用水、洗車用水といった飲用以外の目的で利用されます。
調節池	ちょうせつち	洪水時に河川の水位が上昇すると、越流堤(堤防を低く設置している箇所)から洪水を池内に流入させて一時的に貯留することで、下流に流れる河道流量を軽減するための施設です。
床止め	とこどめ	河床の洗掘を防いで河川の勾配(上流から下流に向かっての川底の勾配)を安定させるために、河川を横断して設けられる施設のことです。
<b>【な】</b>		
内水	ないすい	雨が降ると、低いところには周囲から水が流れ込んできますが、都市側から河川へ排水できずに浸水する現象を内水といいます。これに対して、河川から都市側に水が氾濫することを「外水」といいます。
<b>【は】</b>		
ビオトープ	びおとーぷ	ドイツ語で、生物生息空間のことですが、一般に自然またはそれに近い動植物の生息場所のことをいいます。道路、河川、湖沼、流域、農村地域など地理的に区分された地域で、自然の状態の、できるだけ価値の高い生物群集が存在する生息空間を意味します。生物量の豊富な河川や水辺空間やそれに接する浸水部分などがこれにあたりますが、最近では線的なつながりをもつネットワークを対象とすることも多くみられます。
淵	ふち	水深が深く、比較的流れが緩い場所のことをいいます。 淵は河川の蛇行によってできるほか、滝や人工的に造られた堰などの下流の川底の比較的柔らかい部分が深く掘られることによってできるもの、河川の中の大きな石や橋脚のまわりが深くえぐられることによってできるものがあります。
防災調整池	ぼうさいちようせいち	造成によって雨水が地中に浸透しにくくなり、一時的に下流河川への流出量が増加し、河川等の災害を誘発する恐れがあるため、雨水をいったん貯留し、開発後も開発前より大きくならない流量に調整し放流するための施設です。
防災船着場	ぼうさいふなつきば	大地震や水害といった災害時に、陸上輸送に代わり河川を利用した緊急物資の輸送と物資の荷役、人員の輸送を円滑に行うことを目的とし、背後に多くの住民が生活する都市河川に整備する船着き場のことです。
保水機能	ほすいきのう	雨水が浸透し帯水層に一時的に留まる機能であり、地表面の浸透能力が高い山地や台地は高い保水機能を有しています。
<b>【ま】</b>		
マスタープラン	ますたーぷらん	基本的な方針として位置付ける総合的な計画のことです。
水収支	みずしゅうし	一定の地域において一定の期間に流入する水の量と流出する水の量との差引勘定をあらわしたものです。
水辺空間	みずべくうかん	川沿いに整備された親水公園など、水辺で人々が触れ合う空間のことをいいます。
ミズベリング	みずべりんぐ	かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を創造していくプロジェクトです。 全国各地の水辺でさまざまな取り組みが実施されています。
<b>【や】</b>		
矢板護岸	やいたごがん	板状の杭(矢板)が使われた護岸のことです。 矢板は土砂の崩壊や水の進入を防ぐ役割を果たします。

語句	読み	意味
遊水機能	ゆうすいきのう	降った雨や川からあふれた水が一時的に滞留する機能であり、特に田んぼは高い遊水機能を有しています。
遊水地	ゆうすいち	洪水時の河川流量を一時的に貯留し、下流に流れる流量を軽減する役割をもった土地のことです。
遊水地域	ゆうすいちいき	地形的には主として河川の上流域や中流域の河川に沿う低平地で、洪水時にしばしば氾濫して自然遊水地を呈する地域が該当し、雨水または河川の流水が容易に流入して、一時的に貯留する「貯留機能」を有している地域のことです。
<b>【ら】</b>		
落差工	らくさこう	河床の洗掘を防いで河川の勾配を安定させるために河川を横断して設けられる落差のある施設のことです。
利水	りすい	河川や河川に伴う遊水地、湖沼などから水を引き、その水を利用することです。
流域	りゅういき	流域とは降雨がその河川(ここでは新河岸川)に流入する全地域(範囲)のことです。
礫	れき	粒径が 2 mm以上の岩石の破片のことです。
<b>【わ】</b>		
湾曲	わんきょく	川が弓型に曲がっている部分のことです。
<b>【アルファベット】</b>		
AP	えーびー	荒川基準水面(Arakawa Peil)の略称です。 A.P.+〇〇mは荒川基準水面から高さを指します。 また、T.P.±0m=A.P.+1.1344mとなります。
BOD	びーおーでいー	BOD(biochemical oxygen demand)とは、水中の好気性微生物の増殖や呼吸によって消費される酸素量のことです。水の有機物汚染が大きければその有機物を栄養分とする微生物の活動も活発になり、微生物によって消費される酸素の量も増加します。従って、BODが大きければ水中の有機物汚染が大きいことを示すため、水の有機物汚染の指標とされています。
COD	しーおーでいー	COD(Chemical oxygen demand)主に有機物の分解による、炭素系の酸素消費量のことです。
EC	いーしー	電気伝導率のことで、水中での電気の通しやすさを表す指標です。その値は、電気が通りやすいほど大きく、電気が通りにくいほど小さくなります。
TP	ていーびー	東京湾平均海面(Tokyo Peil)の略称です。 T.P.+〇〇mは東京湾平均海面からの高さを指します。
m <sup>3</sup> /s	りっぼうめーとるまいびょう	立方メートル毎秒と読みます。 1 秒につき 1 立方メートルの流体が移動する体積流量です。